



2022年6月号

No.217

ウトナイ湖通信

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

トピックス

なぞときラリー・春のウトナイ湖を調査せよ！を開催

4月29日・30日、5月1日・3日～5日に標記のイベントを開催しました。天気が変わりやすい中でしたが、6日間で482名の皆さんに自然観察を楽しんでいただきました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

参加者には、道の駅ウトナイ湖の広場で受付後、なぞときマップを持って、野生鳥獣保護センターまでの道沿いで、7つの「自然のなぞ」に挑戦していただきました。ゴールの当センター館内では、日本野鳥の会のレンジャーが、答え合わせとウトナイ湖の自然の解説を行ないました。



道の駅ウトナイ湖前で受付し、【なぞときマップ】を受け取ります。



お題である、野鳥の「声さがし」のため、耳を澄ませる参加者。



台の上には、なぞをとくヒントの方位磁石が。



ここでは、野鳥をさがして、その数をかきました。

たくさんのご感想をありがとうございました！

- ・色々な鳥の鳴き声が聞けたり、みんなで色々なものを探せてすごく楽しかったです。
- ・大人もやってみると意外に楽しめると思いました。
- ・答え合わせで説明が聞けて更におもしろかったです。
- ・5才の子供がすごく楽しめました。
- ・とても楽しかったです。また、色々な季節に来たいです。

(たくさんいただいたご感想の一部の掲載となります)

春から夏にかけて、親鳥の気持ちで自然観察を

春から夏にかけて多くの野鳥は繁殖期を迎えます。気候が良く、昆虫などエサ資源の豊富な季節に、子育てを行ないます。この時期の自然観察で気を付けていただきたいポイントをまとめました。

- 野鳥の巣やヒナに近づかない
- 野鳥の声を屋外で流さない
- 同じ個体やエサを持った野鳥を、観察し続けない

幼虫を捕ったのに、ヒナの元に帰れない。



動かないから見やすい♪



近づいてきた♪



あっちに行って！



(威嚇しています)



頻りに食べないと生きられないよ。

【自然観察路情報】 観察された生きもの

2022年5月19日(木) 13:00~14:45

《野鳥》 キジバト、アオサギ、オオジシギ、トビ、オジロワシ、コゲラ、アカゲラ
ハシブトガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、センダイムシクイ
メジロ、クロツグミ、キビタキ、カワラヒワ、アオジ

《植物》【花】 ズミ、エゾニワトコ、ヤマブドウ、ハスカップ、フデリンドウ
キジムシロ、ミツバツチグリ、オオヤマフスマ、セントウソウ、ハルザキヤマガラシ

【つぼみ】 ズミ、エゾニワトコ、ミヤマザクラ、カラコギカエデ、ツルウメモドキ

《昆虫》 アカヤマアリ、クロヤマアリ、ヨツボシヒラタシデムシ、ベニボタル
オビカレハ(幼虫)、エゾハルゼミ(抜け殻) 《その他》 ナラメリンゴフシ(虫えい)



メジロ



アオジ



キビタキ



クロツグミ

【水鳥カウント調査結果】

2022年5月8日(日) 15:00~16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類 * () 内は個体数

オオハクチョウ(1羽)、ヨシガモ(6羽)、ヒドリガモ(2羽)

マガモ(8羽)、コガモ(29羽)、カワアイサ(2羽)

アオサギ(1羽)、オオジシギ(1羽)、ミサゴ(1羽)

トビ(3羽)、オジロワシ(4羽)、チュウヒ(2羽)、ハクセキレイ(1羽)

ヒドリガモ



オオジシギ



6月の自然予報

昆虫が見られるようになるでしょう♪



エゾハルゼミ

全長 38mm~43mm

例年、5月下旬頃から「ビョーケー、ビョーケー・リリリ～」と独特な鳴き声が聞こえるようになります。



コサナエ

全長 40mm~47mm

トンボの仲間の中では、早い時期に見られる種類です。細長くシャープな形が特徴です。

植物の開花が楽しめるでしょう♪



カンボク

白い花びらに見えるのは、装飾花で、本当の花は、中心の小さな部分です。昆虫に花粉を運んでもらうため、装飾花で昆虫をおびき寄せます。

6月上旬ごろ、木道脇のズミの花が満開に。お見逃しなく!



ズミ

ウトナイいきもの図鑑

【ハッカハムシ】

全長 9mm 前後

ウトナイ湖の自然観察路では、ハムシの仲間が数種類見られるが、ハッカハムシは斑点模様がはっきりしているため、見分けやすい。名前の通り、ハッカなどのシソ科を好む。



ウトナイ検定

*ウトナイ湖に関するクイズ

毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。あなたもウトナイ博士になれる?かも。

**Q. この時期、一足はやく実がなる
この実は、メジロやヒヨドリに大人気です。
どの樹木の実でしょうか?**



- (あ) エゾニワトコ
- (い) ヤマグワ
- (う) ズミ

答えは最後のページです。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端を皆さんに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

ヤマガラ

原因：窓ガラス衝突

事故直後の様子



体重 15g



経過観察時の様子

- 4月21日 窓ガラスに衝突し、仰向けで動けずになっていたところを発見される。数分後には仰向けからうつ伏せ状態になったものの、一向に飛ぶ気配もなく保護に至る。明らかな外傷は認めなかったが、沈うつ状態のため、保温安静状態にして一晩経過観察とした。
- 4月22日 翌日、容体は安定。体の動きも活発となり、飛翔力も十分に確認できたため、リリースとした。

ヤマガラ（スズメ目 シジュウカラ科）

全長14cm。雌雄同色。1年を通じ観察ができる種で、平地から低山の広葉樹林で生息しています。昆虫や木の実などを食べ、地上に落ちたドングリなどを拾って枝上にとまり、両脚で押さえながら殻をくちばしで割って中身をたべる行動がよく見られます。ゆっくりしたテンポで“ツーツーピー、ツーツーピー”とさえずります。

お気軽ガイドウォーク in ウトナイ湖



レンジャーや当センターのボランティアが40分程、屋外でウトナイ湖の自然を案内する無料のガイドウォークです。
(原則毎月、第2日曜日に開催予定です)

6月12日(日) 10:30~11:30

※雨天時は、館内ガイドウォークに変更します。



対象：どなたでも（小学生以下保護者同伴）

定員：先着10名程度 ※できる限り皆さまをご案内させていただきますので、お気軽に参加ください。

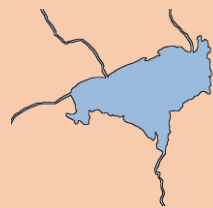
事前申込：なし。直接野生鳥獣保護センターへ

市民ギャラリー

第18回 野鳥展 ~ ウトナイ湖と美々川 ~

日時：6月1日(水)~6月19日(日) 展示：笠水上 徹明氏

内容：野鳥の写真展です。



◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。

鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。

また、苫小牧市が業務の一部を（公財）日本野鳥の会に委託しています。

【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間：午前9時~午後5時 / 休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌日）及び年末年始

答え：(い) ヤマグワ

(あ)のエゾニワトコと、(う)のズミは、真っ赤な丸い実をつけます。ヤマグワは、赤や紺色で、小さなブドウの様な形をしています。ヤマグワ、エゾニワトコ、ズミ、どの実もウトナイ湖の生きものたちの命を支えています。

